



歯っぴーだより

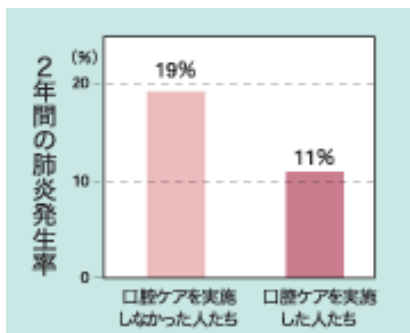
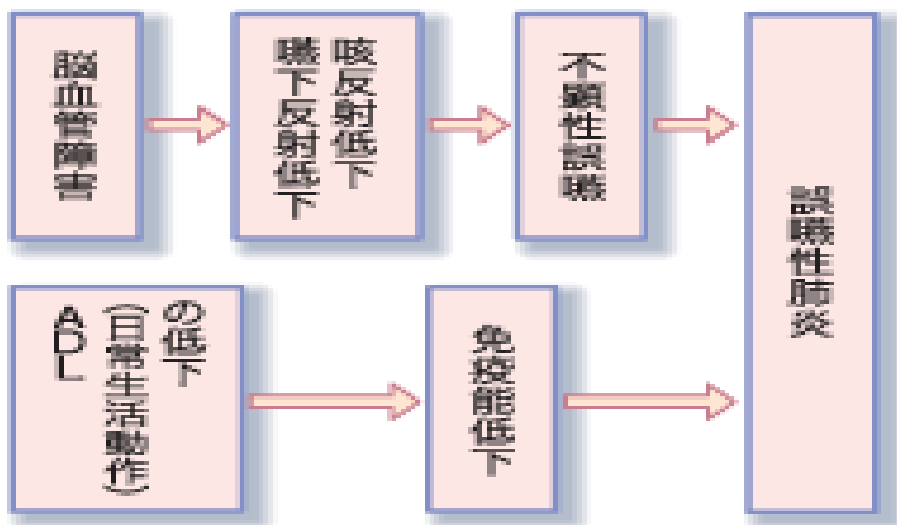
訪問診療夏号

「誤嚥性肺炎について」

■誤嚥性肺炎のメカニズム

誤嚥性肺炎とは、口腔内の唾液や細菌が誤って気道に入り込むことで起きる肺炎です。誤嚥は特に夜間に起こりやすく、誤嚥を起こしても「むせ」などの自覚症状がないことがあります。これを繰り返すと誤嚥性肺炎を起こします（不顕性誤嚥）。また、胃の内容物が嘔吐により気道に入った場合にも誤嚥性肺炎が起こることがあります。食前、食後の口腔ケアと食事時の誤嚥防止が大切です。

特に要介護高齢者において口腔衛生状態を良好に保つことにより、QOL(生活の質)を著しく低下させる不顕性誤嚥による肺炎を予防することが報告され、介護予防という視点からも注目されています。



■口腔ケアで老人の肺炎予防

院長のなかです。
口腔ケアは QOL の改善のためにも重要なんですよ！！

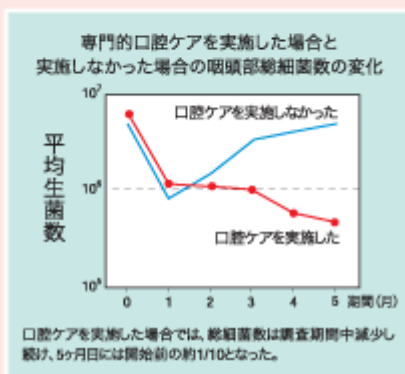


実際に口腔ケアを実施した人たちと口腔ケアを実施しなかった人たちを比べると、肺炎の発生率はおよそ40%減少させる効果があるとのことです。

口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防と、 他のさまざまな効果

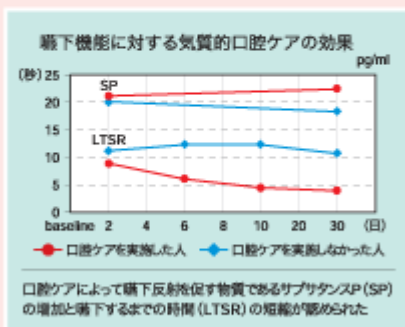
誤嚥性肺炎のメカニズムを考えたときに、さまざまな口腔ケアの予防効果が期待できます。

- ①器質的口腔ケアにより、
口腔と咽頭の細菌数が減少する。



私田克彦ら、プロフェッショナル・オーラル・ヘルスケアを受けた高齢者の咽頭細菌数の変動、日老医誌、34、1997より引用改変

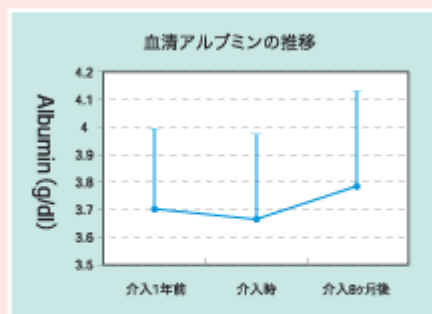
- ②継続した口腔ケアによって、要介護
高齢者の嚥下するまでの時間が短縮し、誤嚥の予防につながる。



Yoshino, A. et al : Daily Oral Care and Risk Factors for Pneumonia among Elderly Nursing Home Patients JAMA 2001より引用改変

- ③機能的口腔ケアによって、舌や口唇などの口腔機能が改善し、食べる量が増え、栄養状態の改善が図られる。これにより、免疫能の向上につながる。

老人ホームでは、潜在的に低栄養(血清アルブミン値が、3.5g/dl以下)の人が、30~40%前後いるといわれています。その多くが口腔の機能に問題があることが、最近の研究で示唆されています。介護予防の取り組みのひとつとして、歯科医師や歯科衛生士が、口腔機能の低下を起こしつつある人に対し、義歯を調整することなどにより口腔機能を引き出し、栄養状態が改善するということが、明らかになってきました。



菊谷武ら、介護老人福祉施設における利用者の口腔機能が栄養改善に与える影響、日老医誌、第41巻第4号別刷、2004より引用改変

なか歯科クリニック

練馬高野台駅 順天堂練馬病院向かい
TEL03-6913-3805 FAX03-6913-3806



なか歯科クリニック

〒177-0033

TEL03-6913-3805

FAX03-6913-3806

練馬区高野台 1-8-18TMビル 1F

平日 10:00~13:00 14:30~20:00

土日 10:00~13:00 14:30~18:00

休診日 木・祝 訪問診療随時受付